

プラズマディスプレイシステム

PDP-501HD

設置マニュアル



このマニュアルでは主に設置や接続について説明しています。操作については別冊の「操作マニュアル」をご覧ください。

もくじ

安全上のご注意	2 ~ 5
付属品の確認	6 ~ 7
スピーカー部の付属品	
ディスプレイ部の付属品	
メディアレシーバー部の付属品	
設置のしかた	8 ~ 9
システムのつなぎかた (基本接続)	10 ~ 11
各部の名前	12

テレビ放送を見るための

つなぎかた	13 ~
VHF/UHF アンテナをつなぐ	14
BS アンテナをつなぐ	15
BS アンテナの設定	16 ~ 17
BS デコーダをつなぐ	18
BS デコーダの設定	19 ~ 20
CS チューナーをつなぐ	21

いろいろな機器を見るための

つなぎかた	22 ~
ふつうのビデオデッキをつなぐ	23
BS チューナー内蔵の ビデオデッキをつなぐ	23
DVD や DVD LD プレーヤーを つなぐ	24
ハイビジョン LD プレーヤーを つなぐ	25
ハイビジョン LD プレーヤーを 接続した場合の設定	26 ~ 28
BS ハイビジョン放送を録画する ためのつなぎかた	29
ビデオカメラやゲーム機をつなぐ ...	30
コントロールコードをつなぐ	31


安全上のご注意


安全に正しくお使いいただくために

図記号について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな図記号を使用しています。その記号と意味は次のようになっています。

内容をよく理解してから本文をお読みください。


 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を表しています。


図記号の意味

 △ 記号は注意（警告を含む）しなければならない内容です。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

 ⊘ 記号は、やってはいけない（禁止）内容です。

図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。


 ⊙ 記号は、必ず行っていただく（強制）内容です。


図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。


警告


異常時の処置

万一煙が出ている、変なおいや音が出るなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

必ず電源プラグをコンセントから抜いて  プラグを抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店またはアフターサービス連絡先に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

万一内部に水や異物等が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはアフターサービス連絡先にご連絡ください。そのまま使用すると火災・  プラグを抜く感電の原因となります。

画面が映らない、音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグを抜いて、修理を販売店またはアフターサービス連絡先  プラグを抜くにご依頼ください。

万一、本機を落としたり転倒させることにより、キャビネットあるいはパネルを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま  プラグを抜く使用すると火災・感電の原因となります。


設置

本機は大型で重量があるので、ぐらついた台や傾いた所などを避け安定した場所に置いてください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。本文をお読みになり、転倒防止の備えをしてください。

また、開梱や持ち運びは二人以上で行ってください。






禁止









電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重いものを  禁止のせてしまうことがあります。重いものをのせるとコードが傷ついて、火災・感電の原因となります。

警告

使用環境

<p>本機の内部に水が入ったり、ぬらさないようご注意ください。屋外や風呂場など、水場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>  <p>禁止</p>	<p>表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。</p>  <p>100V以外禁止</p>
	<p>本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災の原因となります。</p>  <p>禁止</p>

使用方法





<p>本機の上に花瓶、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器または小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。</p>  <p>禁止</p>	<p>本機のキャビネットを外したり、改造したりしないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、販売店またはアフターサービス連絡先にご依頼ください。</p>  <p>分解禁止</p>
<p>本機の通風孔などから、内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。</p>  <p>禁止</p>	<p>電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。</p>  <p>ほこり除去</p>
<p>電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、ひっぱったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。コードが痛んだら(芯線の露出、断線など)販売店またはアフターサービス連絡先に交換をご依頼ください。</p>  <p>禁止</p>	<p>乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。</p>  <p>禁止</p>
<p>雷が鳴り出したらすぐに使用を中止して、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。</p>  <p>接触禁止</p>	<p>ディスプレイの前面パネルに、たたくなどして衝撃を加えるとパネルが割れ、火災・けがの原因となります。前面パネルには絶対に衝撃を加えないでください。</p>  <p>禁止</p>

⚠ 注意






設置

<p>放熱を良くするため他の機器・壁等から間隔をとってください(10 cm以上)。また、次のような使い方をしないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押し入れなど、風通しの悪い狭いところに押し込む。 ・じゅうたんやふとんの上に置く。 ・テーブルクロスなどをかける。 ・横倒しにする。 ・逆さまにする。 		禁止	<p>窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たる場所、エアコン・ヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。熱による変形や、本機内部の部品に悪影響を与え、火災の原因となることがあります。</p>		禁止
<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししたり、本機を操作しないでください。感電の原因となることがあります。</p>		禁止	<p>アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。 ・BS、CS放送受信用アンテナは強風を受けやすいので、しっかりと取りつけてください。 		注意
<p>電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。</p>		禁止	<p>例えば、5年に一度くらいは内部の掃除を販売店などにご相談ください、内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行くとより効果的です。なお掃除費用については販売店などにご相談ください。</p>		注意
<p>本機の上にものを置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。</p>		禁止	<p>お手入れの際は安全のために電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。</p>		プラグを抜け
<p>電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。</p>		禁止	<p>ディスプレイはガラス部品を使用しています。万一部品が割れた際には、破片でけがなどをしないよう取扱いに注意し、販売店またはアフターサービス連絡先に修理をご依頼ください。</p>		注意
<p>本機を調理台や加湿器、エアコンの吹き出し口のそばなど高温、多湿になる場所あるいは油煙、およびほこりの多い場所には置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。</p>		禁止	<p>ディスプレイを直射日光が当たる場所に長期間置かないでください。前面保護パネルの光学特性が変化し、変色したり、その原因となります。</p>		注意
<p>本機のディスプレイは質量が約47kg(スタンドを含む)あり、奥行がなくて不安定なため、開梱や持ち運び、および設置は2人以上で行ってください。</p>		注意	<p>ディスプレイ背面にある通気孔は、1ヵ月に1回を目安に掃除機でホコリを吸い取ってください(このとき掃除機は「弱」に設定してください)。また、通気孔のお手入れは必ず本機の主電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。ホコリをためたまま使用すると内部の温度が上昇し、故障や火災の原因となります。</p>		注意
<p>移動させる場合は主電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部のコード、転倒防止具を外したことを確認してください。コード類を外さずに移動するとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。</p>		プラグを抜け			





使用環境

<p>周囲温度は0～40の範囲内でご使用ください。</p>	 注意	<p>長期間ご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。</p>	 プラグを抜け
<p>本機を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたりしますと、動作部に露が生じ(結露)本機の性能を十分に発揮できなくなるばかりでなく、故障の原因となることがあります。このような場合はよく乾燥するまで放置するか、徐々に室温を上げてからご使用ください。</p>	 注意	<p>静止画像等、同じ絵がらを長時間連続で表示しないでください。画像が焼きつき残像として残る場合があります。</p>	 注意

使用方法

<p>電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと発熱したりほこりが付着して火災の原因となることがあります。また、電源プラグの刃に触れると感電することがあります。</p>	 確実に差す	<p>本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様はご注意ください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。</p>	 禁止
<p>電源プラグは、根元まで差し込んでみがあるコンセントには接続しないでください。発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。</p>	 禁止	<p>ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。</p>	 注意
<p>長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。</p>	 禁止		

電池

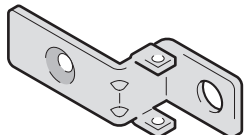
<p>指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。</p>	 禁止	<p>電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてください。電池の破裂、液もれにより、火災やけがの原因となることがあります。</p>	 禁止
<p>電池をリモコン内にセットする場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。</p>	 注意	<p>長時間使用しない時は、リモコンから電池を取り出しておいてください。電池から液がもれて火災やけが、あるいは周囲を汚す原因となることがあります。</p>	 電池を取出せ もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また万一、もれた液が身体についた時は、水でよく洗い流してください。

付属品の確認

付属品は 3 つの梱包箱に分けて入っています
各々の箱の中のものをご確認ください

スピーカー部

スピーカー取付金具 × 4



コードクランパー × 2



スピーカー取付ネジ類



× 4

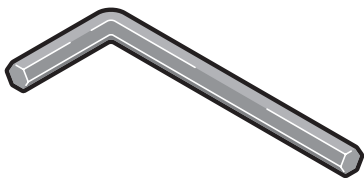


× 4



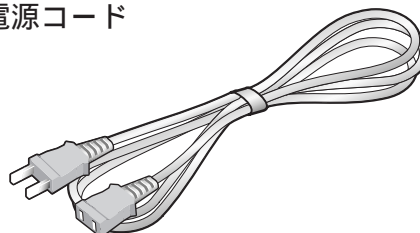
× 4

取付工具 × 1
(六角棒スパナ)



ディスプレイ部

電源コード



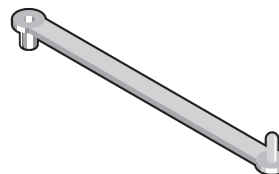
転倒防止用のボルト × 2



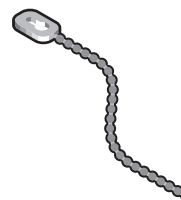
ワイピングクロス
(前面パネルを拭く布) × 1



スピードクランプ × 2



ビーズバンド × 2



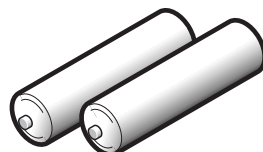
保証書

メディアレシーバー部

リモコン



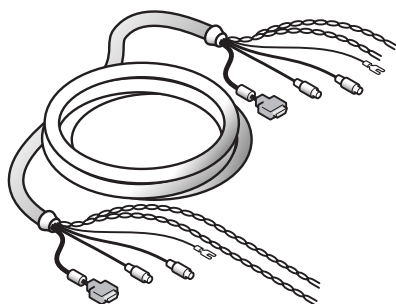
単 3 乾電池 (2 本)



取扱説明書 (2 冊)

- ・ 操作マニュアル
- ・ 設置マニュアル

システムケーブル



サービスネットワーク

設置のしかた

設置は次の手順でおこなってください

1 置く場所を決める

直射日光が当たらない、風通しの良い場所を選んでください。

ディスプレイとメディアレシーバーをむすぶシステムケーブルの長さは約3mです。

2 製品を配置する

ディスプレイを置く

ディスプレイ部は重いので(約47kg)、動かす場合は二人以上で行ってください。

メディアレシーバーを置く



注意

メディアレシーバーの上には物を乗せないでください。乗せると通風が妨げられ、故障の原因となります。

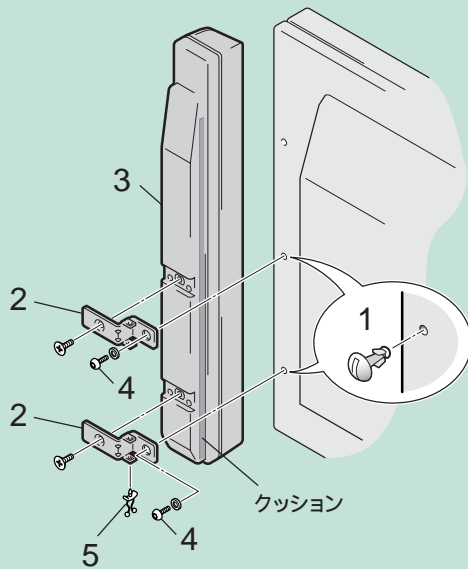


注意

ディスプレイのスタンドは外さないでください。

取外しは取付の専門業者がおこないます。専用の壁掛金具やスタンドを使う以外は、付属のディスプレイスタンドは外さないでください。

3 スピーカーを取り付ける



1. ホールリベット (下の2つ) を外す。
(ホールリベットはコインなどを使って回して外します。)
2. 取付金具をスピーカーに付ける。
(スピーカーのクッションがはがれないように)
3. スピーカーをディスプレイに取り付ける。
下のネジから取付けます。
(遊びがありますので、かり止めします。)
4. すき間がないように位置を調整してネジをきちんと止めます。
5. 付属のコードクランパーを差し込みます。
(スピーカーコードのクランプに使用してください。)

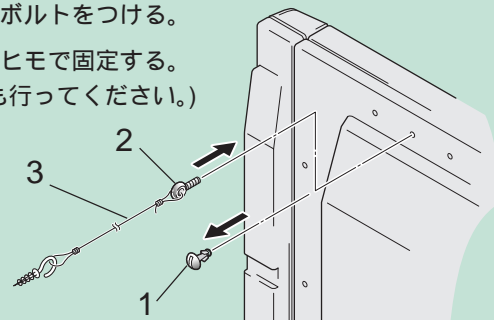
前面のグリルネットに力を加えたり、指等を差し込んだりしないでください。



スピーカーを取り付ける際に、付属以外のネジを使用するとスピーカーの脱落や故障の原因となります。スピーカーの取り付けには必ず付属のネジを使用してください。スピーカーを取り付けた後で、ディスプレイを動かす場合は、スピーカー部分を持たないでください。ディスプレイの下部を持って移動するようにしてください。

4 転倒防止の備えをする

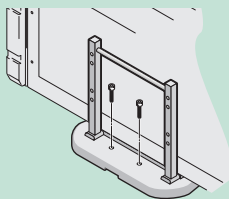
1. ディスプレイの裏側の上にあるホールリベットを外す。
2. 付属の転倒防止用のボルトをつける。
3. 壁または柱に丈夫なヒモで固定する。
(同様に反対側も行ってください。)



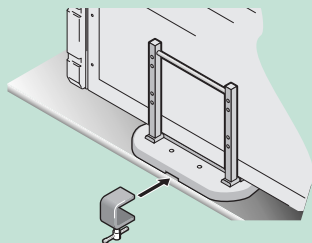
ヒモ及びフックは市販のものをお使いください。

このようなやり方もあります

市販のネジを使って止める



市販のクランパーを使って止める



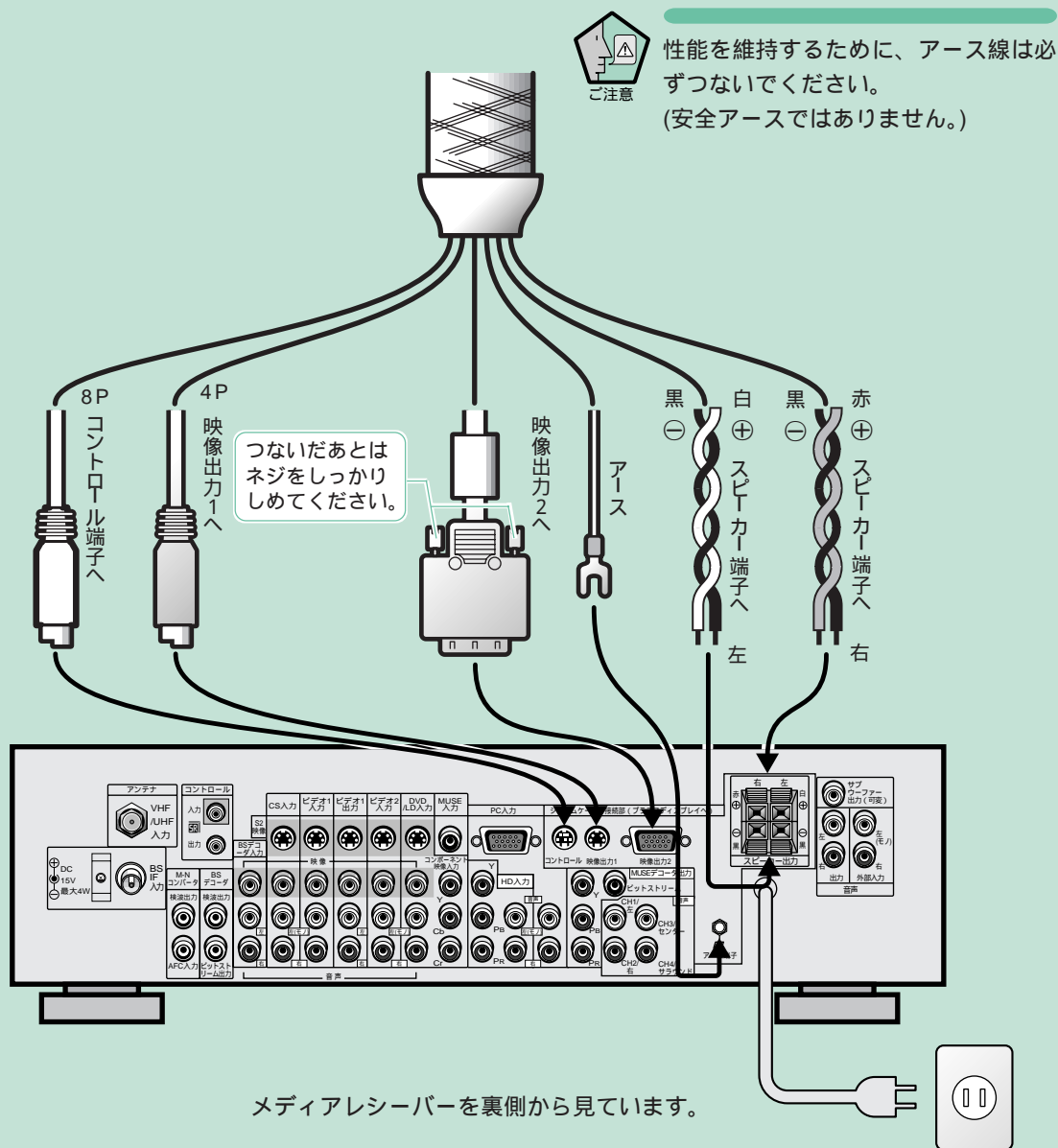
この次は配線です。
「システムのつなぎかた (基本接続)」
をご覧ください。

システムのつなぎかた（基本接続）

メディアレシーバー、ディスプレイ、スピーカーの接続をします
次の手順でおこなってください

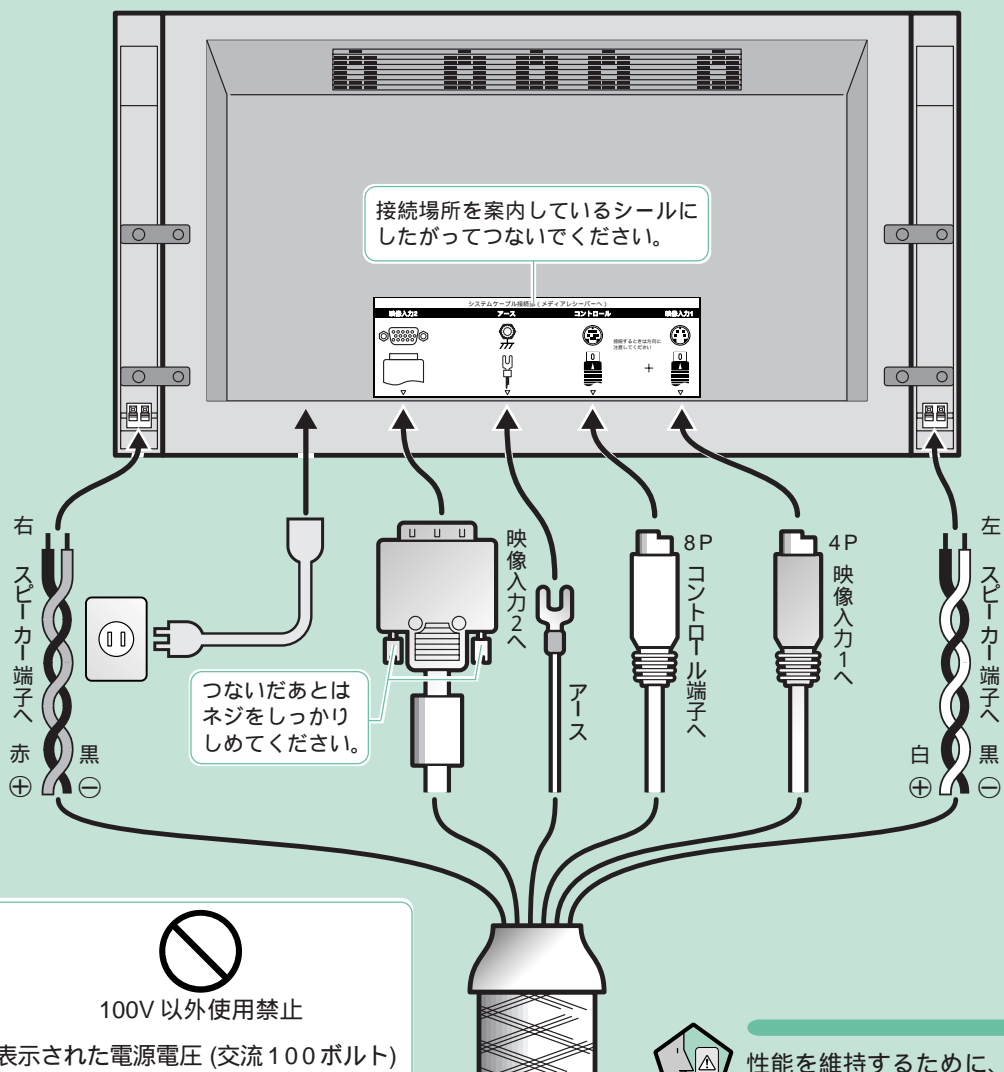
1 システムケーブルをメディアレシーバーにつなぐ

スピーカーコードの短い方がメディアレシーバー側につながります。



2 システムケーブルをディスプレイ側につなぐ

ディスプレイを裏側から見えています。



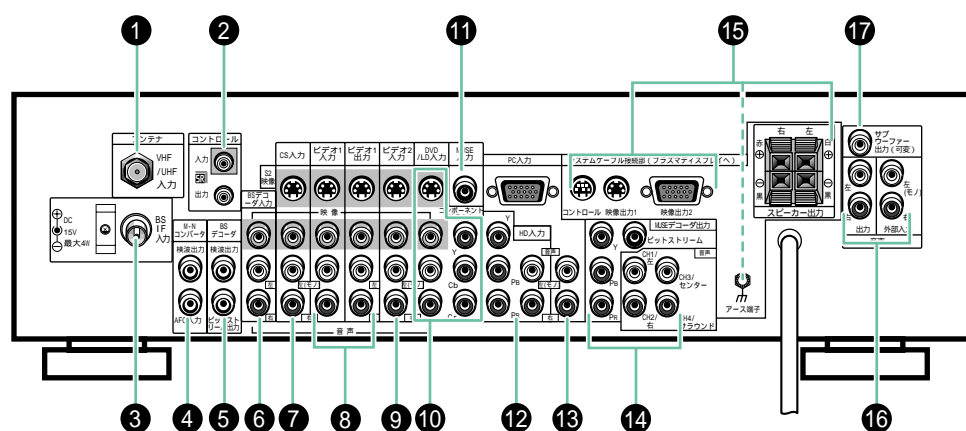
100V 以外使用禁止
 表示された電源電圧（交流100ボルト）
 以外の電圧で使用しないでください。
 火災・感電の原因となります。

ご注意
 性能を維持するために、アース線は必
 ずつないでください。
 （安全アースではありません。）

システムケーブルをつないだ後に、メディアレシーバーおよびディスプレイの電源
 プラグをコンセントに差し込みます。

各部の名前

接続端子



- ① VHF/UHF 入力端子
VHF/UHF のアンテナ線を接続します。
- ② コントロール入出力端子
31 ページをご覧ください。
- ③ BS-IF 入力端子
BS アンテナ線を接続します。
- ④ M-N コンバーター端子
MUSE-NTSC コンバーターを接続します。
- ⑤ BS デコーダ端子
BS デコーダを接続します。
- ⑥ BS デコーダ入力端子
BS デコーダを接続します。
- ⑦ CS 入力端子
CS チューナーを接続します。
- ⑧ ビデオ 1 入出力端子
ビデオデッキを接続します。
- ⑨ ビデオ 2 入力端子
ビデオデッキや CD/LD コンパチブルプレーヤーなどをつなぎます。
- ⑩ DVD 入力端子
DVD LD プレーヤーなどをつなぎます。
- ⑪ MUSE 入力端子
ハイビジョン LD プレーヤーをつなぎます。
- ⑫ HD 入力端子
ハイビジョン用のビデオデッキをつなぎます。
- ⑬ PC 入力端子
デスクトップタイプのパソコンを接続します。
- ⑭ MUSE デコーダ出力端子
ハイビジョン用のビデオデッキをつなぎます。
- ⑮ システムケーブル接続端子
ディスプレイ、スピーカーを接続します。
- ⑯ 音声入出力端子
AV ステレオアンプなどをつなぎます。
- ⑰ サブウーファー出力端子
アンプ内蔵のサブウーファーをつなぎます。

テレビ放送を見るためのつなぎかた

色々な放送を見るためには以下のような機器や準備が必要です

放送	用意する機器
VHF/UHF 放送	VHF/UHF アンテナ
BS 放送	BS アンテナ
BS 有料放送 (WOWOW など)	BS アンテナ + BS デコーダ
BS ハイビジョン放送	BS アンテナ
CATV 有料放送	CATV 放送会社の設置工事 + ホームターミナル
CS 放送	CS アンテナ + CS チューナー
CS デジタル放送	CS アンテナ + デジタルCS チューナー

1997年12月現在



ひとこと

- アンテナまたはCATVはマンションなどの共同設備を利用できる場合があります。
- CATVの受信はサービスの行われている地域のみ可能です。

リモコンを使った設定があります

BSアンテナをつないだときや、BSデコーダ(WOWOWデコーダ)をつないだあとでは、リモコンを使って設定しなければならないことがあります。

その場合、主電源を入れスタンバイ状態にしないとリモコンが使いません。

スタンバイ状態にする方法は、別冊の9ページをご覧ください。

VHF/UHF アンテナをつなぐ

アンテナの接続は、ご家庭のアンテナ線の種類によって異なります。以下に2つの代表例を示します。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

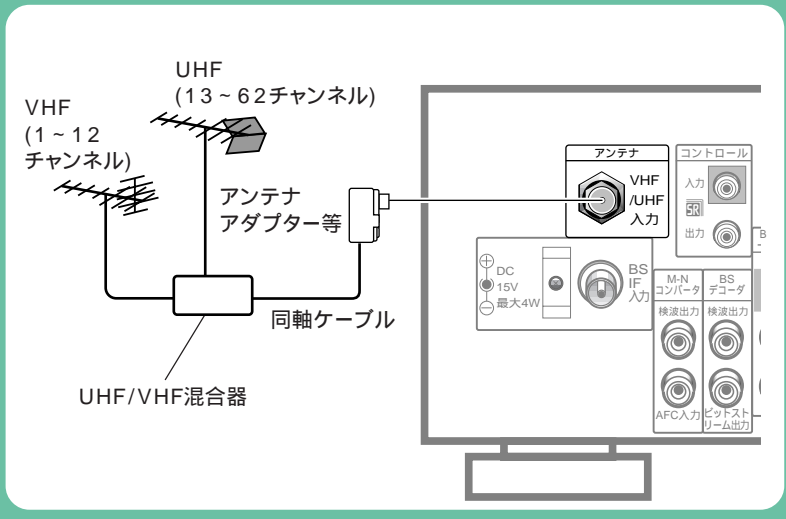


注意

アンテナを建てるときは専門の業者へアンテナ工事には技術と経験が必要ですので、お買い求めの販売店にご相談ください。

- 送配電線から離れた場所に設置してください。
アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

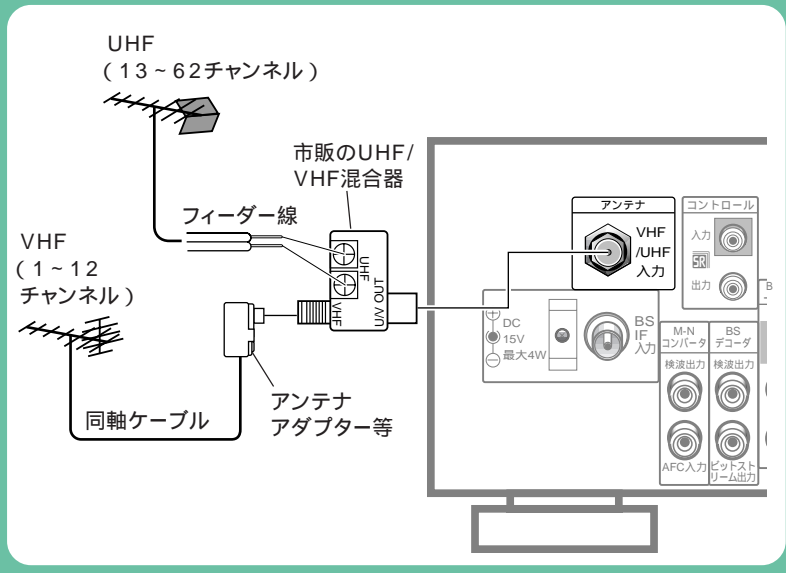
アンテナ線がVHF/UHF 混合の場合



ひとこと

- アンテナアダプターやF型プラグがついていない場合は、アンテナアダプターを取付けます。
- UHF/VHF混合器を使用される場合に、電波の受信状態が悪くなり、画面に縞もようがすることがあります。この場合はケーブルなどを使用して、混合器をできるだけ本機から離して接続してください。

アンテナ線がVHFとUHFで分かれている場合



BS アンテナをつなぐ



注意

アンテナを建てるときは専門の業者へアンテナ工事には技術と経験が必要ですので、お買い求めの販売店にご相談ください。BS、CS放送受信アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付け・設置してください。

BS アンテナを設置するときは

- アンテナの向きを正確に合わせる必要がありますので、お買い上げの販売店にご相談ください。



ひとつこと

設置したあとは「BS アンテナの設定」(16 ページ)をご覧ください。

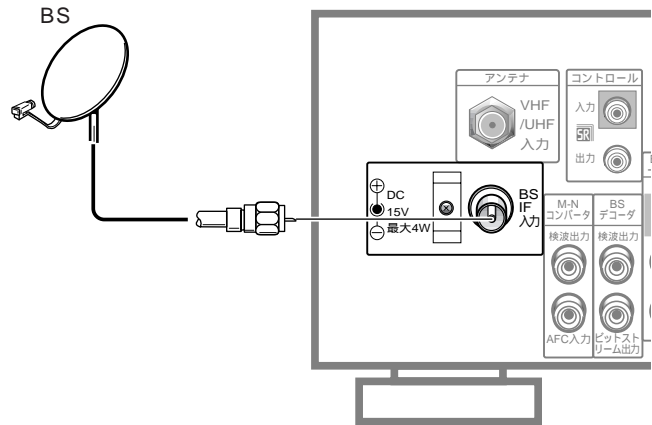


ひとつこと

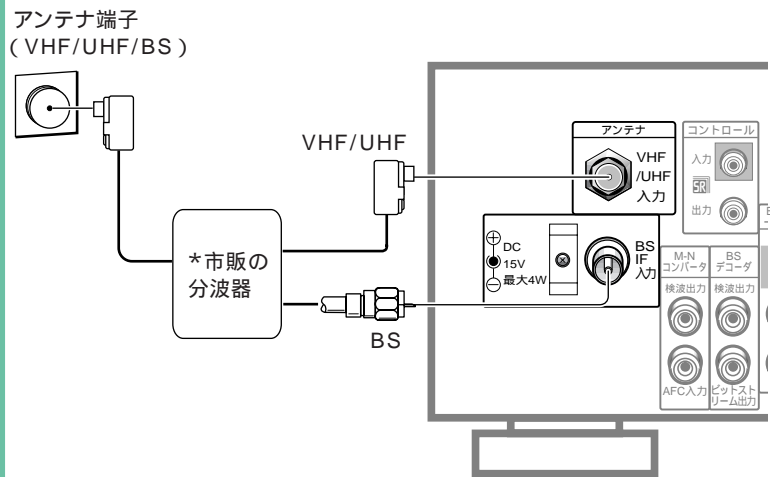
マンションの設備、器材によって、アンテナの設定が異なる場合があります。詳しい内容は、アンテナ工事の業者にご確認ください。

- 分波器を使用されると、電波の受信状態が悪くなり、画面に縞もようがでることがあります。この場合は、ケーブルなどを使用して、分波器をできるだけ本機から離して接続してください。

個人で受信する場合



共同受信設備を利用して受信する場合 (マンションなど)



テレビ放送を見るためのつなぎかた

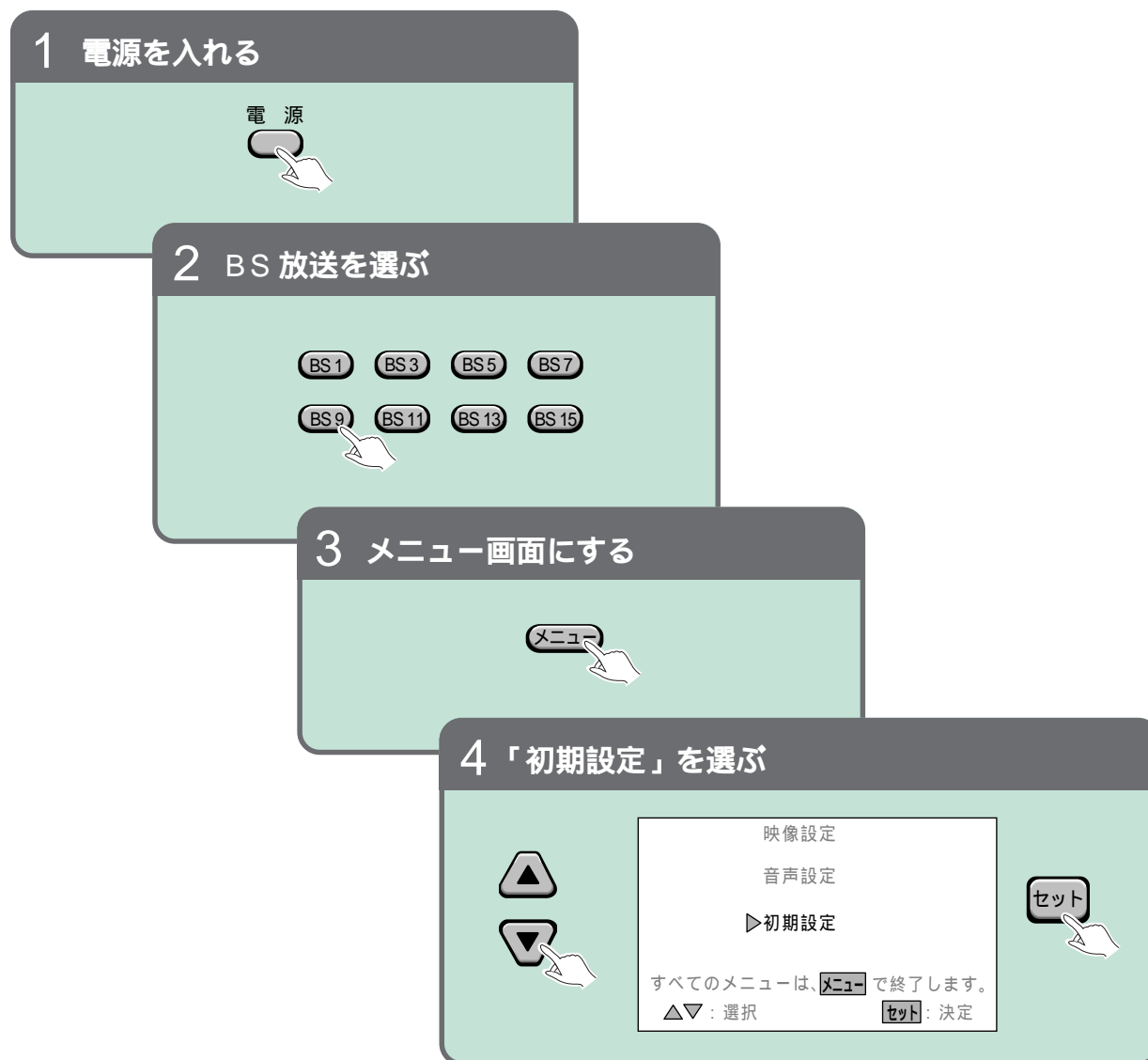
BS アンテナの設定

BS 放送を見るために、必要に応じて次のような設定の変更を行ってください。

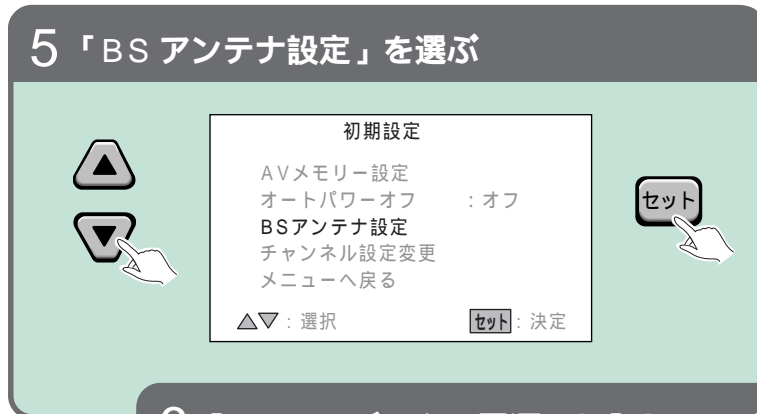
- BS アンテナ電源の設定
- WOWOW デコーダの動作設定 (19 ページ)
- 設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。(詳しくは別冊 9 ページ)

BS アンテナ電源の設定

- BS アンテナは、電源を供給しないと、使用できません。この設定でアンテナ電源をオンにしてください。
- 共同受信設備(マンションなど)の場合はアンテナ電源の設定は「オフ」にしてください。(お買い上げ時は「オフ」に設定されています。)



5 「BS アンテナ設定」を選ぶ



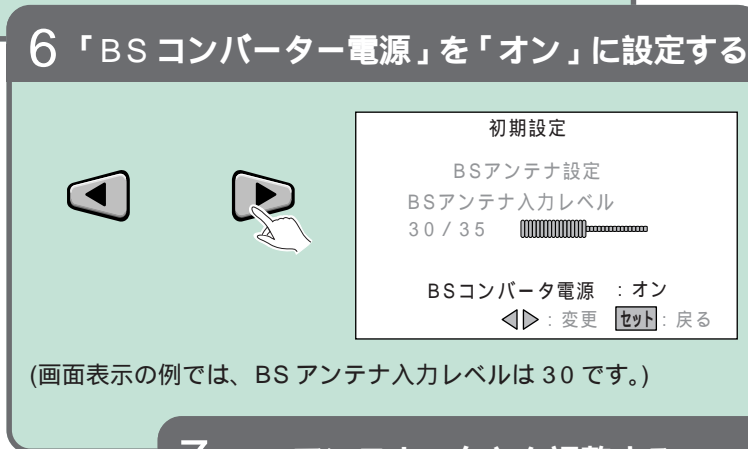
ひとこと

BS アンテナの設定画面では、次の内容を表示しています。

30 / 35 現在のアンテナ入力レベルのバーグラフ表示

●調整した中での最大値(例)
(アンテナの向き調整をした場合、それまで調整した中でのアンテナ入力レベルの最大値が表示されます。)

6 「BS コンバーター電源」を「オン」に設定する



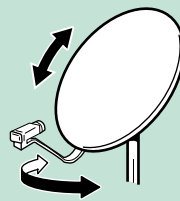
●現在のアンテナ入力レベル(例)
アンテナ入力レベルは、入力信号のレベルによって表示が変化します。

BS アンテナの向きを調整する際には、現在のアンテナ入力レベルの数値が調整した中での最大値と同じになるか、できるだけ最大値に近づくように調整します。

7 BS アンテナの向きを調整する

BS 放送をよりよく受信するために、アンテナの向きを調整してください。

BS アンテナ入力レベルの表示を見ながら BS アンテナの向きを上下、左右に調整する。

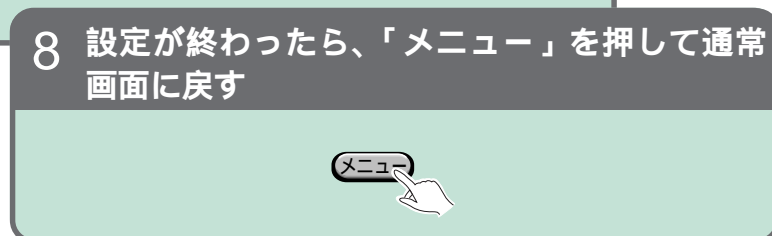


レベルが最大になるところで、BS アンテナをしっかりと固定します。

調整が終わったら



8 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す



テレビ放送を見るためのつなぎかた

BS デコーダをつなぐ

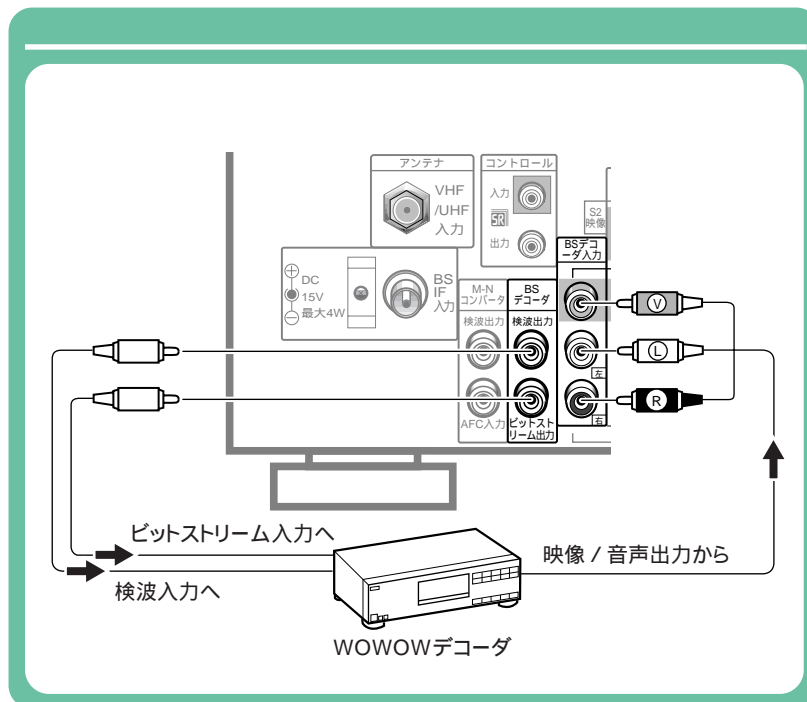
BSの有料放送(WOWOW/セント・ギガ(St.GIGA)など)を見る場合は、スクランブルを解除するために、デコーダの接続と、放送会社との受信契約が必要な他、次ページ以降のデコーダの設定をします。

WOWOW/St.GIGA の場合

- ① 放送会社と受信契約をして、WOWOW デコーダを用意します。(セント・ギガ(St.GIGA)は、WOWOW とは別に受信契約が必要です。)
- ② WOWOW デコーダを下図のとおり本機に接続します。

詳しい内容はWOWOW デコーダの取扱説明書をご覧ください。

WOWOW デコーダの映像 / 音声出力端子は、必ずBS デコーダ入力端子に接続してください。



ひとこと

WOWOW 放送は、有料放送として放送内容をスクランブル(放送内容をそのままでは見られないようにかきまぜた状態)処理しています。放送を見るにはJSB放送会社との受信契約を行い、スクランブルを正常な状態に戻す WOWOW デコーダを用意してください。セント・ギガ(St.GIGA)は音声だけの独立した放送です。ご契約されていないと、音声を聞くことはできません。JSB放送会社とは別に受信契約を行ってください。

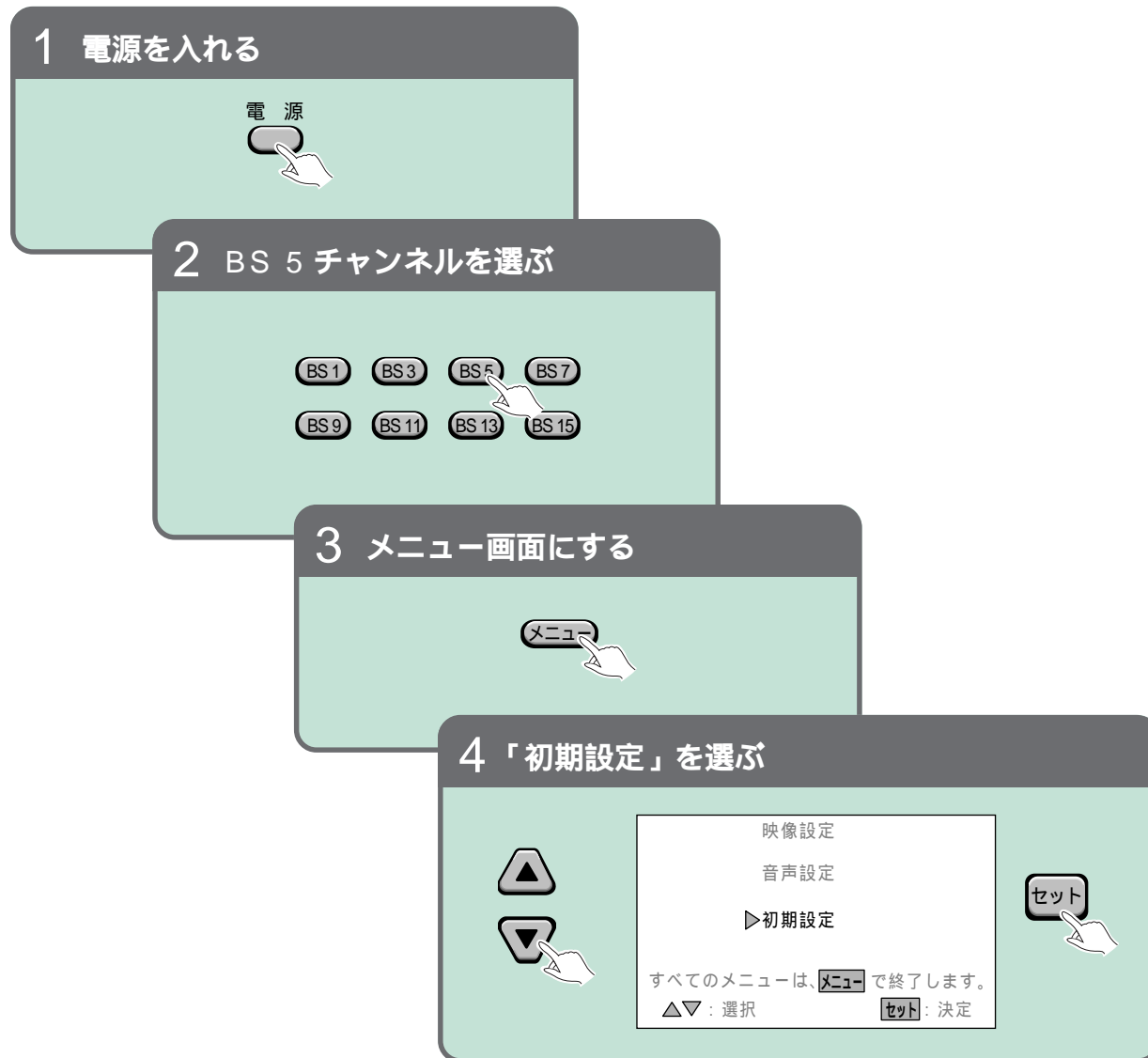
WOWOW、セント・ギガ(St.GIGA)は、BS5チャンネルで放送されています。(1997年12月現在)

BS デコーダの設定

WOWOW デコーダの動作設定をする

- BS 有料放送のチャンネルで、スクランブル解除のためにデコーダを経由するかどうかの設定をします。
- 設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。(詳しくは、別冊 9 ページ)

ここでは BS 5 チャンネルのデコーダ設定を“デコーダ自動”にする場合を説明します。



5 「チャンネル設定変更」を選ぶ



初期設定

オートパワーオフ : オフ

BSアンテナ設定

チャンネル設定変更

メニューへ戻る

AVメモリー設定

▲▼ : 選択 セット : 決定



6 「リモコン」の列でBS 5チャンネルを選ぶ



初期設定

チャンネル設定変更

リモコン	デコーダ設定	表示
BS1	TV	BS 1
BS3	TV	BS 3
BS5	デコーダ固定	BS 5
BS7	TV	BS 7
BS9	TV	BS 9

▲▼ : 選択 ◀▶ : 変更 セット : 表示

7 「デコーダ設定」の列でデコーダ自動を選ぶ

工場出荷時には「TV」になっています。



初期設定

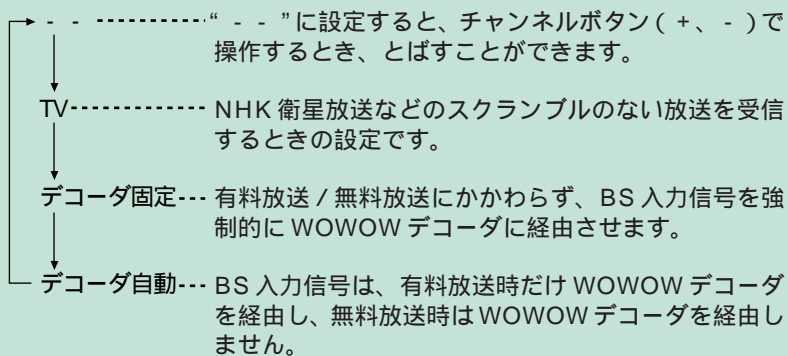
チャンネル設定変更

リモコン	デコーダ設定	表示
BS1	--	BS 1
BS3	--	BS 3
BS5	デコーダ自動	BS 5
BS7	TV	BS 7
BS9	TV	BS 9

▲▼ : 選択 ◀▶ : 変更 セット : 表示



下図のように切り換わります。

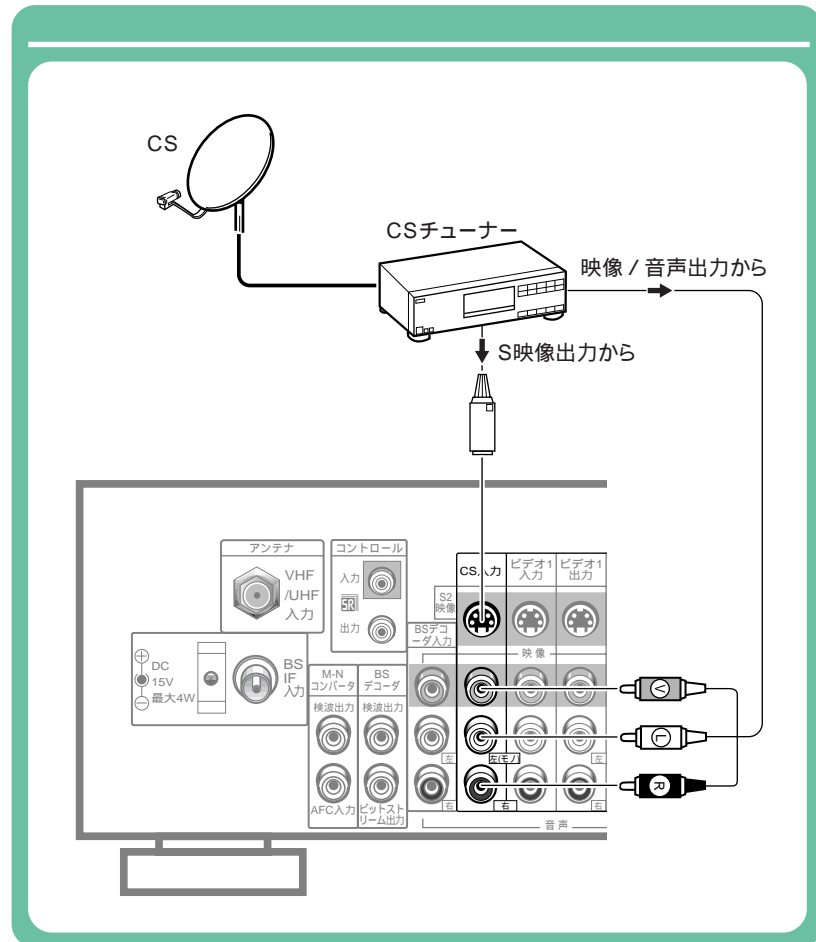


8 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す



CS チューナーをつなぐ

CS チューナーは以下のようにつなぎます



テレビ放送を見るためのつなぎかた



ご注意

CS入力を選んだ場合、CSチャンネルの切り換えは、CSチューナー側で行ってください。

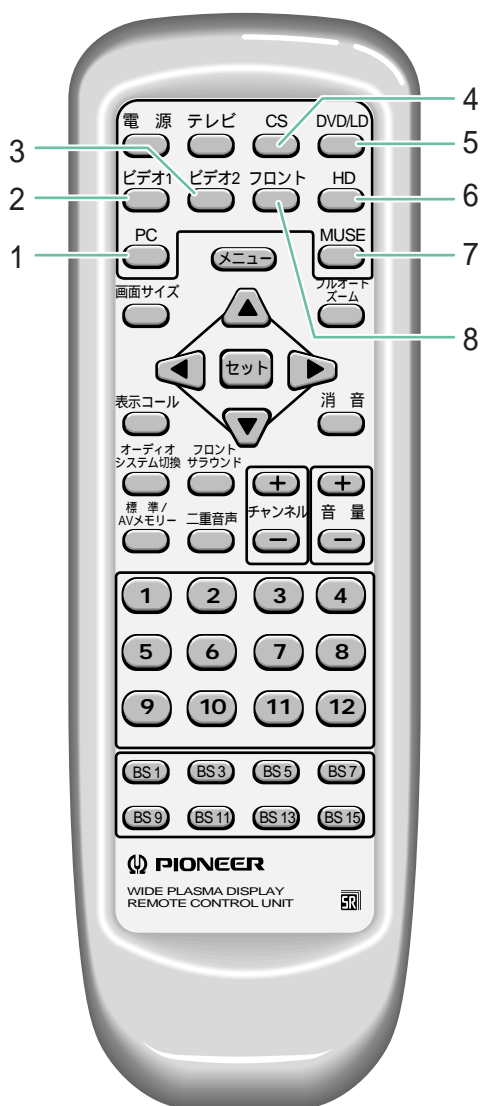
いろいろな機器を見るためのつなぎかた

リモコンを使った設定があります

ハイビジョンLDプレーヤーを接続したあとでは、リモコンを使って設定しなければならないことがあります。その場合、主電源を入れ、スタンバイ状態にしないとリモコンが使いません。スタンバイ状態にする方法は、別冊の9ページをご覧ください。

すべてつなぎ終わると...

このマニュアルどおりにつないだ後、リモコンを使っているいろいろな機器を選ぶことができます。



1. パソコン（リアパネルに接続したもの）
2. ふつうのビデオデッキ
3. その他のAV機器
4. CSチューナー
5. DVD LDプレーヤー
6. ハイビジョン用のビデオデッキ
7. ハイビジョンLDプレーヤー
8. フロントに接続した機器
（パソコン又はビデオカメラ、ゲームなど）



ご注意

このマニュアルでは、外部につなぐいろいろな機器を想定してそのつなぎかたを示していますが、機器の組み合わせによっては接続する端子の組み替えが必要です。例えば、ハイビジョンLDプレーヤーはMUSE入力端子とビデオ2入力端子を使いますから、その他のAV機器はビデオ2入力端子ではなくCS入力端子を使う、といったことです。

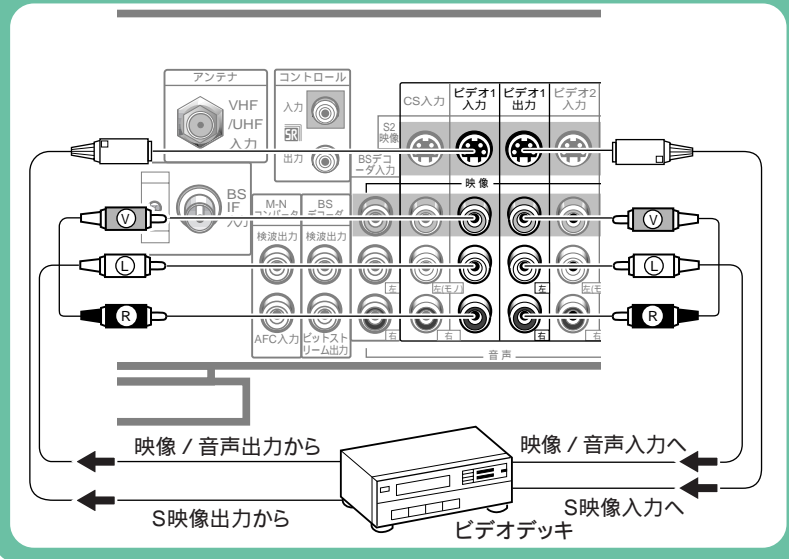


注意

ビデオデッキをつなぐ場合
ビデオ1出力端子に接続したビデオ
は、必ずビデオ1入力端子にビデオ
の出力を接続してください。

ふつうのビデオデッキをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから...

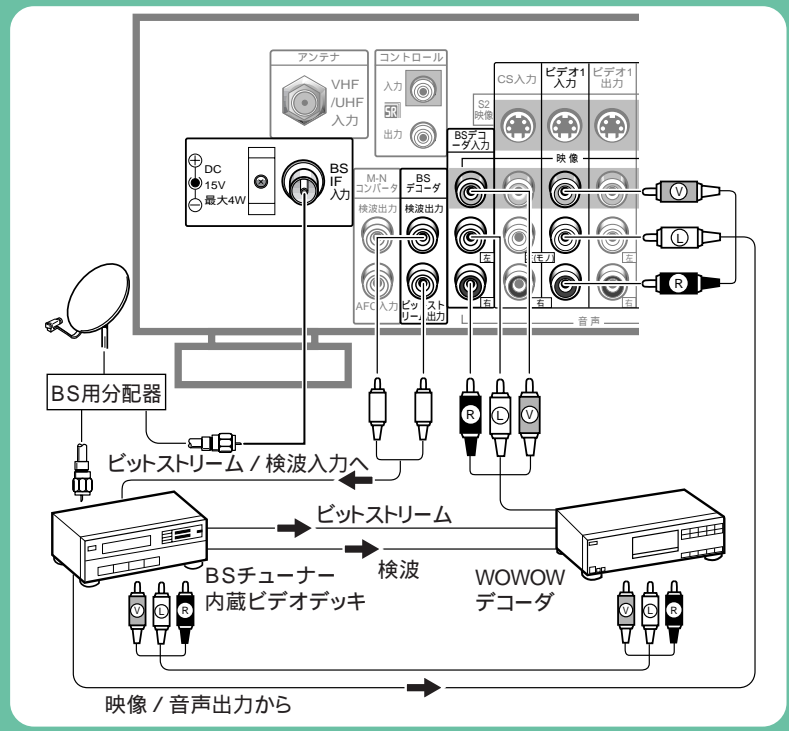


ご注意

WOWOWデコーダをビデオデッキ
に接続する場合
ビデオデッキによっては、本機に接
続できないものもあります。詳しい
接続のしかたや操作方法は、ビデオ
デッキとWOWOWデコーダの取扱
説明書をご覧ください。また、BS用
分配器の取扱説明書もあわせてご覧
ください。

BSチューナー内蔵のビデオデッキをつなぐ

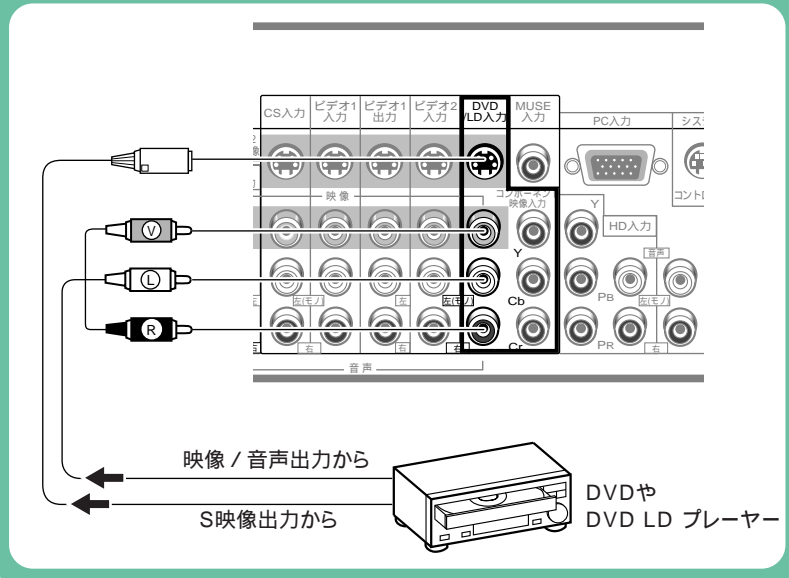
接続は必ず電源を切ってから...



いろいろな機器を見るためのつなぎかた

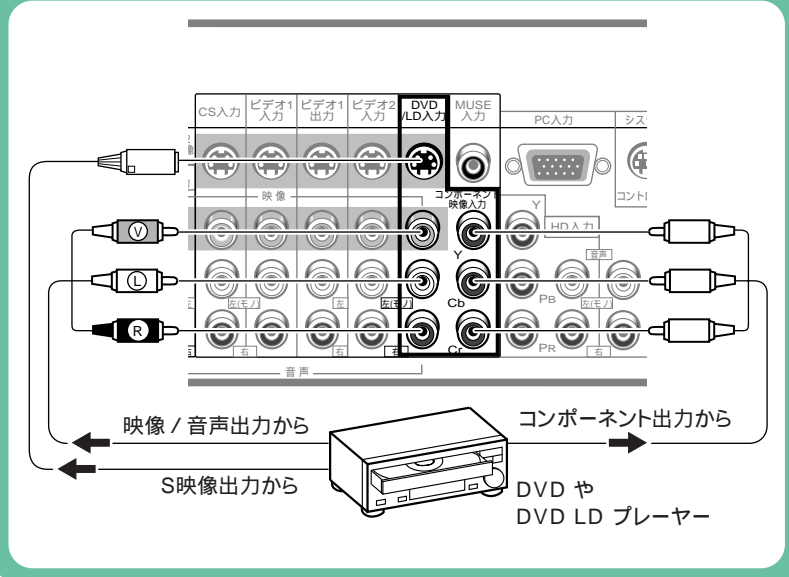
DVD や DVD LD プレーヤーをつなぐ コンポーネント映像出力端子が無い場合のつなぎかた

接続は必ず電源を切ってから...



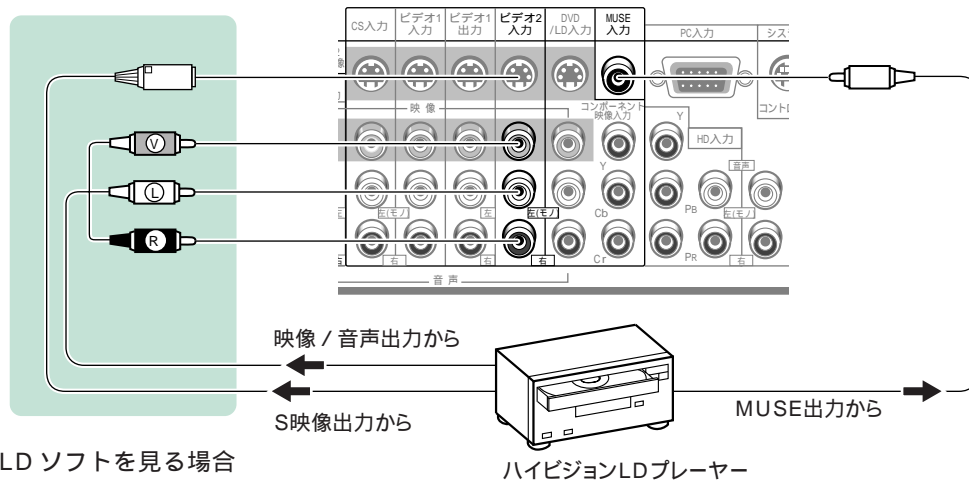
DVD や DVD LD プレーヤーをつなぐ コンポーネント映像出力端子が有る場合のつなぎかた

接続は必ず電源を切ってから...



ハイビジョンLDプレーヤーをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから...



ふつうのLDソフトを見る場合や、EFMオーディオが記録されたハイビジョンLDを見る場合に接続してください。

ハイビジョンLDプレーヤー



ご注意

EFMオーディオの記録されたハイビジョンLDを再生する場合は、オーディオ出力端子からEFMオーディオが出力されます。ハイビジョンLDプレーヤーのV、L、Rの出力は必ずメディアレシーバーのビデオ2入力につないでください。



ひとこと

EFMはエイト・トゥ・フォーティーン・モジュレーションの略で、CDフォーマットのデジタル音声です。

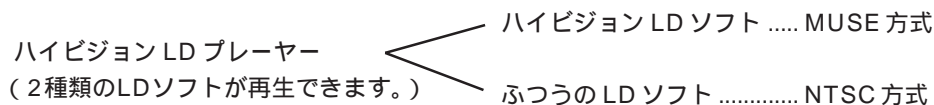
いろいろな機器を見るためのつなぎかた

ハイビジョンLDプレーヤーを接続した場合の設定

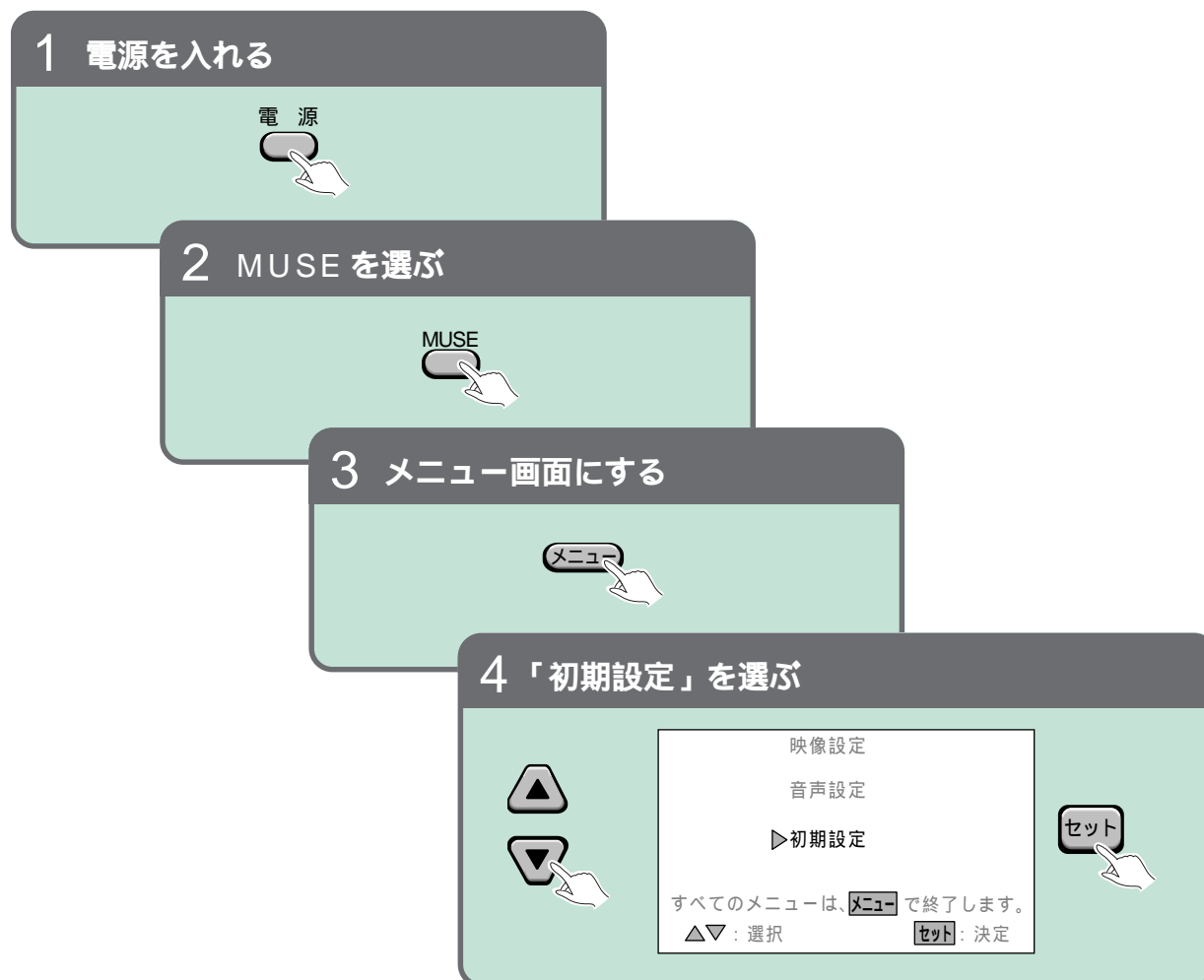
この設定は、ハイビジョンLDプレーヤーを本機のビデオ2入力端子に接続した場合に行います。
設定は2つあります。

1. MUSE サブ入力を設定する


- 設定はリモコンで行います。本機の主電源が入り、スタンバイ状態になっていることを確認してから行ってください。(詳しくは、別冊9ページ)
- ハイビジョンLDプレーヤーは、ハイビジョンLDとふつうのLDの両方が再生できるコンパチブル機器です。



MUSEサブ入力の設定をビデオ2にすると、ハイビジョンLDプレーヤーでMUSE方式のLDやNTSC方式のLDを再生する場合に、本機が自動的にディスクを判別し、映像と音声の入力設定を切り換えるので、入力の切替操作をする必要がありません。



5 「MUSE サブ入力」を選び、「ビデオ2」に設定する



初期設定

オートパワーオフ	: オフ
入力表示設定	
MUSEサブ入力	: ビデオ2
メニューへ戻る	
AVメモリー設定	

△▽ : 選択 ◀▶ : 変更



ご注意

お使いのハイビジョンLD プレーヤーの機種によっては、MUSEサブ入力の切り換えがうまくいかない場合があります。その場合には、MUSE サブ入力をビデオ2 に設定しないでお使いください。

6 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す



メニュー

いろいろな機器を見るためのつなぎかた

2. 便利な機能 EFM 音声

この設定をオンにすると、ハイビジョンLDプレーヤーでEFM音声対応のLDソフトを再生する場合に、本機が音声入力の切り換えを自動で行います。

EFM音声対応のLDソフトをご覧になる場合、お好みによってEFM音声の設定を切り換えてご使用ください。

1 電源を入れる



EFMはエイト・トゥ・フォーティーン・モジュレーションの略 (CDフォーマットのデジタル音声)。EFM音声の記録されたLDソフトを再生する場合は、オーディオ出力端子から音声信号が得られる (MUSE出力端子では得られません) ので本機への接続はビデオ2入力端子を使います。

2 MUSE を選ぶ

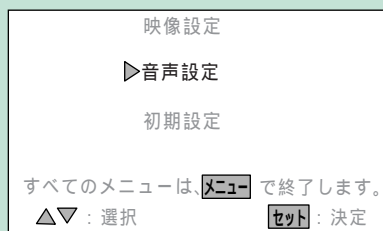


3 メニュー画面にする

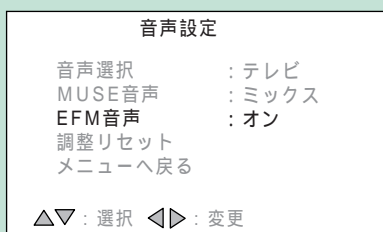
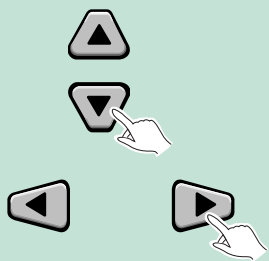


ハイビジョンLDプレーヤーを接続し、MUSEサブ入力やEFM音声の設定をした場合、映像や音声は自動でビデオ2入りに切り換わるので、ビデオ2入力は選択できません。

4 「音声設定」を選ぶ



5 「EFM 音声」を選び、オンに設定する



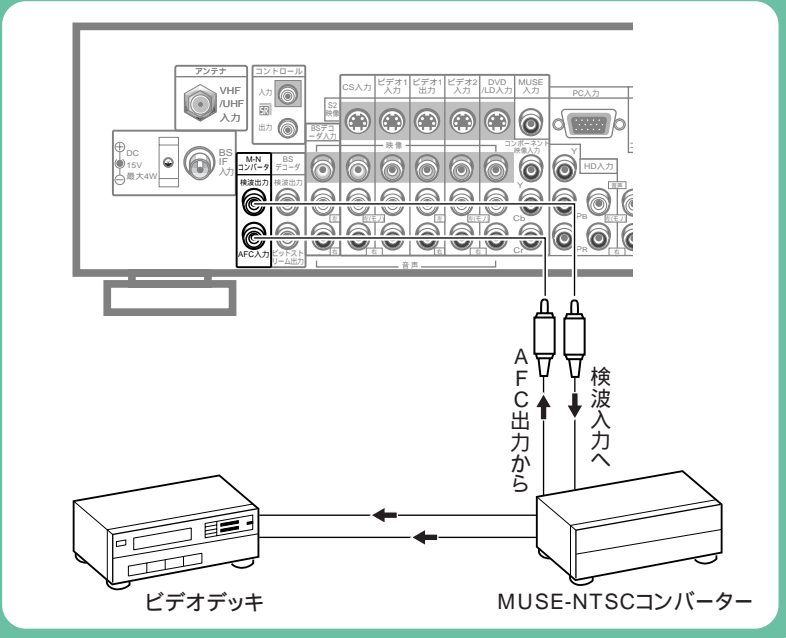
6 設定が終わったら、「メニュー」を押して通常画面に戻す



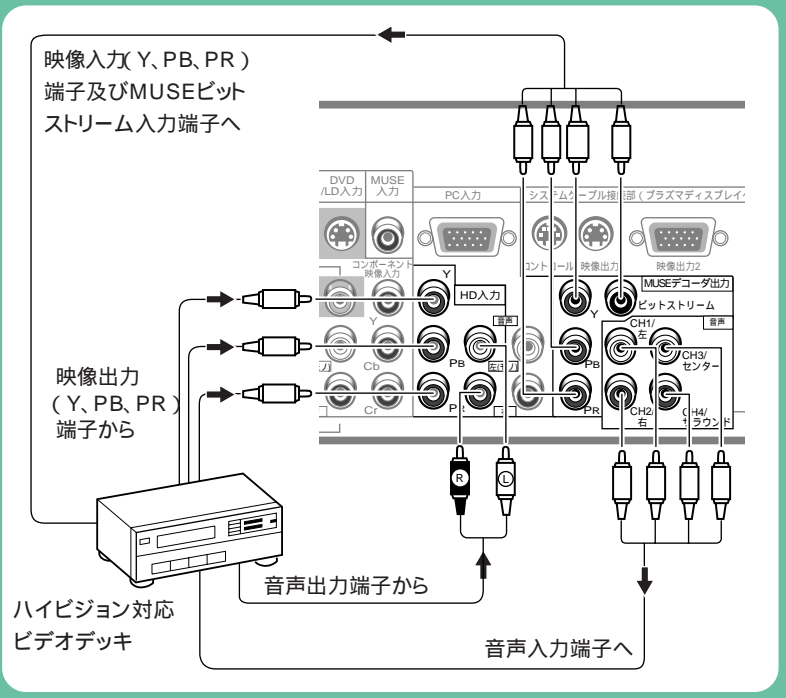
BS ハイビジョン放送を録画するためのつなぎかた

BS ハイビジョン放送を録画するには、次の2通りのやりかたがあります。

1 MUSE/NTSCコンバーターを用意してふつうのビデオデッキで録画する



2 ハイビジョン用のビデオデッキで録画する



ご注意

ハイビジョン放送の信号は、ビデオ1につないだビデオデッキでは録画できません。

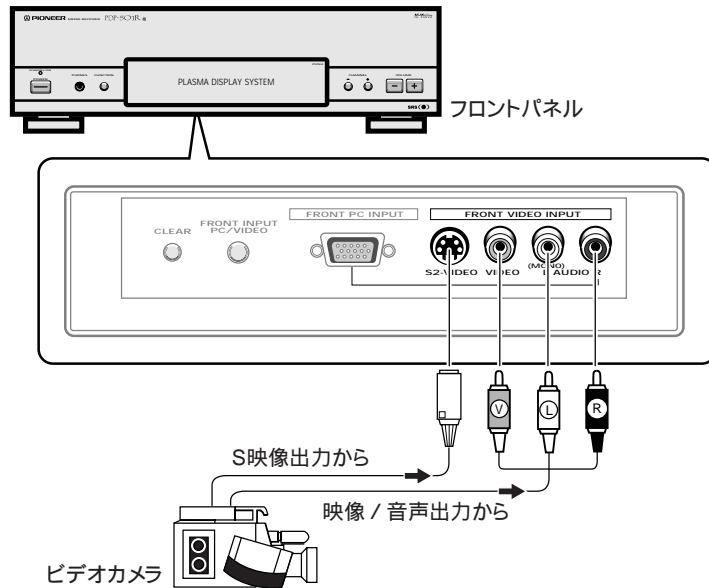
いろいろな機器を見るためのつなぎかた

ビデオカメラやゲーム機をつなぐ

ビデオカメラ、ポータブルビデオレコーダー、ゲームなどは、前面部のビデオF(フロント)端子に接続すると便利です。

ビデオカメラなどをつなぐ

接続は必ず電源を切ってから...

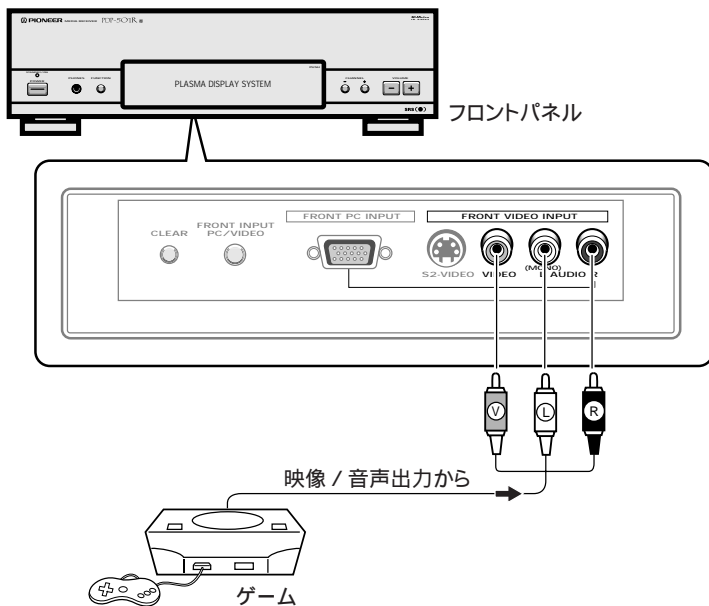


ひとこと

モノラル音声のビデオカメラやゲームを使用する場合は、音声-左(L)端子に差し込みます。左右のスピーカーから聞くことができます(モノラル)。

ゲーム機をつなぐ

接続は必ず電源を切ってから...



コントロールコードをつなぐ

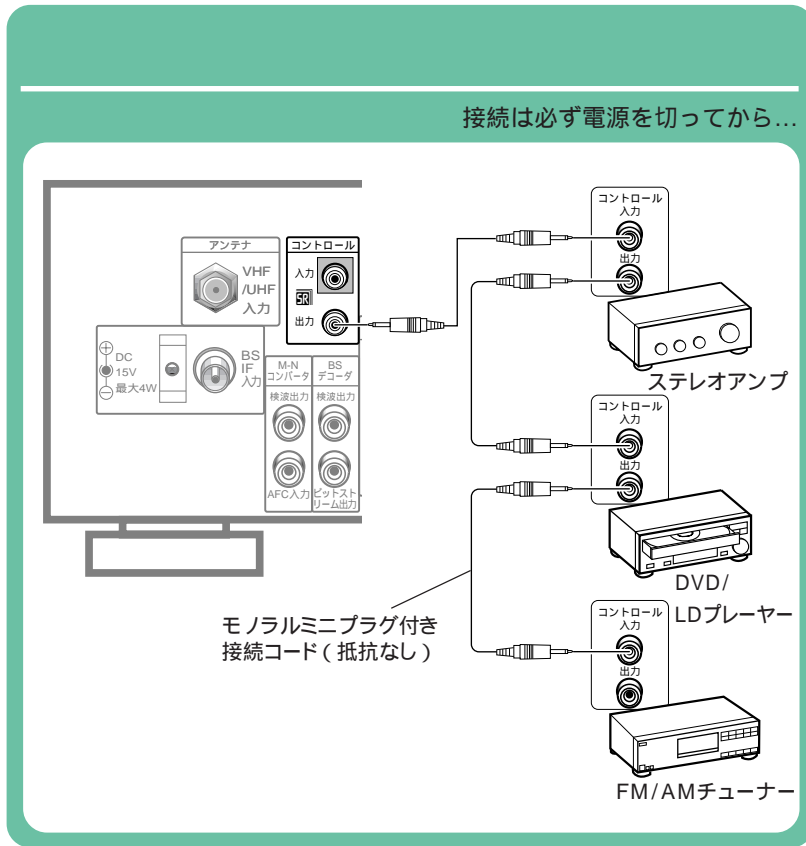
パイオニア  マークのついた AV 機器のリモコン操作を、本機のリモコン受光部で行えます。

接続は必ず電源を切ってから...



ひとこと

各機器の映像、音声信号の接続を先に終了させてください。
 コントロール入力端子にプラグを差し込むと、その機器のリモコン受光部は受け付けなくなります。



いろいろな機器を見るためのつなぎかた

このたびはパイオニア製品をお買い求めいただきありがとうございました。

お使いになる前に、正しく安全にお使いいただくため、「安全上のご注意」を必ずお読みください。
本機の機能を十分に発揮させてお使いいただくために、この取り扱い説明書を最後までお読みください。
本機の取り扱い説明書は「設置マニュアル」と「操作マニュアル」で構成しています。
お読みになった後は、「保証書」、「ご相談窓口・修理窓口のご案内」と一緒にして大切に保管してください。

高調波ガイドライン適合品



この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。